

## はじめに

洋の東西を問わず、自省を促す格言は数多くある。例えば『論語』を紐解けば、「吾れ日に吾が身を三省す」の有名なくだりが登場し、「人の為に謀りて忠ならざるか」、「朋友と交わりて信ならざるか」、「習わざるを伝えたるか」と続く。高等教育機関なら、さしずめ教育、研究、そして社会貢献に全力を尽くしているかを自問自答することが「三省」だといえよう。

教職員一同、とりわけ点検・評価報告書作成委員会の各委員の多大な尽力により、ここに平成 17 年度分の自己点検・評価報告書の完成をみた。平成 18 年度に第三者評価を受けることを決めてから、まず 15 年度及び 16 年度の報告書を作成し、ここに 3 か年の最終年度、すなわち 17 年度の「自省」が完成したのである。不備な点もあるやもしれないが、限られた時間の中で成し遂げることができた「努力の結晶」だと自負するものである。

もとより教育においても研究においても、さらには社会貢献においても、日々の点検と改善努力が不可欠であることは言うをまたない。今日まで本学の運営が比較的順調に推移してきたことを踏まえると、教職員はこの努力を惜しまなかったといえる。しかし、ソクラテスが「汝自身を知れ」と論じたように、時には立ち止まり、振り返り、また自らの全体像を見ることは、さらなる成長・発展の原動力となる。点検・評価報告書をまとめ、第三者評価を受ける最大の目的は、まさにここにある。

関係専門家から成る第三者機関の評価を真摯に受け止め、改善・改良の糧としなければならぬことは当然である。だが、本点検・評価報告書の作成過程で、既に多くの問題点や課題が洗い出され、本学の活性化、さらには改革に結びつけようとする努力も見出される。すなわち、我々は一連の作業を通じ、既に「自身」を知る貴重な機会も得たといってもよい。

今後は一連の作業で得られた教訓、そして第三者機関による評価を踏まえ、選択と集中を図りながら、また絶えざる自己研鑽と改善・改革努力を重ねながら、本学の特色をさらに発揮していかなければならないと考える。このためにも、自己評価を相対化・客観化し、将来構想の策定、さらには中長期計画の企画・立案を行う「将来構想委員会」（仮称）の設置・整備が喫緊の課題に位置づけられる。

関係各位に重ねて謝意を申し上げますとともに、本学自身による自己点検・評価、そして第三者評価により、本学の教育哲学がますます磨かれるとともに、本学の新たな成長・発展の礎になることを心より願い、また期待してやまない。

学長 本田 昂